

地域医療を育てる会 情報紙 クローバー

CLOVER



発行 代表 NPO法人地域医療を育てる会
藤本晴枝
http://iryousodateru.com/
第80号 平成29年3月5日発行
東金市東金1142 「東金の家」内
TEL: 090-7634-7175

病院からのお知らせ

患者さんへのコンサート

クリスマスシーズンたけなわの12月に、地域の病院や施設でコンサートが開かれました。その中から、開催20回を迎えたさんむ医療センターと、第1回を開催した東千葉メディカルセンターのコンサートについてお伝えします。

患者さんに本物のクラシック音楽を

去る12月19日(土)に、さんむ医療センターでは20回目のクリスマスコンサートが催されました。演目は「金色夜叉」。演じるのはプロのオペラ歌手とピアノリストによる本格的な音楽劇です。観客は病院に入院している患者さんと、病院スタッフ、そして患者さんの搬送を手伝うボランティアさん。開会前から1階のロビーはたくさんの人たちでいっぱいでした。



さんむMCの会場

このコンサートは今からさかのぼること20年前、当時院長に就任して2年目だった坂本昭雄先生(現・理事長)の「本物のクラシック音楽を、入院患者さんに聞かせてあげたい」という想いから始まりました。病院の近くにある、のぎくプラザにあったグラインドピアノを病院ロビーに運び込み、調律も行ったのコンサートでした。「当時は経済的にもそれだけのお金をかけることが出来たんですよ」と、篠原先生(現・院長)。奥様がピアノリストということもあり、フルートとピアノの演奏会を行いました。

様々な工夫

その後、医師不足による経営難の時期を迎え、「コンサートをやっている場合ではないのではないか」

といった意見も出たときがありました。グラインドピアノを常設の電子ピアノにしたり、つてを頼って演奏家を探したりするなど、様々な工夫をして続けてきました。

その中で、クラシック一辺倒だったプログラムも、患者さんになじみのある歌曲を盛り込んだミュージカルになりました。実は本格的な声楽家の歌声は、周波数によっては患者さんの体調を悪化させてしまうこともあったのだそうです。なじみのない曲に飽きて、途中で病室に戻ってしまう患者さんもいたとか。

そこで懐メロを中心としたプログラムに変えたところ、患者さんがとても喜んでくれました。それから、一つのお芝居の中で様々な懐かしい歌を唄うスタイルになっていった

のだそうです。ちなみに、今回のコンサートで歌われた曲は20曲。お芝居のタイトルは金色夜叉ですが、「初恋」「黄金虫」「夜明けのスキヤット」「閑白宣言」「シクラメンのかほり」「昭和枯れススキ」「スーダラ節」...といろいろなジャンルの歌謡曲がこれでもかと登場します。そして最後は「川の流れるように」「里の秋」を皆で歌いました。



金色夜叉の貫一とお宮

この時に、医師が参加したことも患者さんにとって楽しい驚きだったようです。「毎年、チラシにはサプライズゲストと書いて、当日まで内緒にしてあるのですが、必ず若い医師が演じるようにしています」とのこと。若い医師の意外な一面を見て、患者さんだけでなく、職員の皆さんも大いに楽しんでいるようです。

地域住民を巻き込むために

コンサートには車いすやベッドに寝たきりの患者さんも集まります。患者さんの搬送は、職員とボランティアで行っています。コンサートの二日後にお亡くなりになるような重症の方も、こういったボランティアさんによって音楽を楽しむおひと時を過ごしているのです。この搬送ボランティア、そもそもは「地域の住民をコンサートに巻き込むために、どうしたらよいか」と考えた中で生まれたとのこと。コンサートをテイアさんもいるそうです。

鍵はおもてなしの心

第一回から毎年ピアニストを務めてこられた篠原栄子さんによると、コンサートが続いてきた秘訣の一つは、職員の皆さんによるおもてなしの心なのだそう。多忙な出演者の方々は本番一週間前、前日、当日の午前中の三回しかリハーサルができませんので、事前に楽譜を読み込んでレッスンをしてくれます。

総務課の方々も前日の会場設営から当日の控室の準備など、出演者が気持ちよく演じることが出来るように配慮してくださっているとのこと。

「出演をお願いした人たちが、とても喜んでくださいます。だから、また次回もよろしく願います、とこちらからお願ひしやすいんです」と篠原さん。「お家に帰れない方に質の高いプロのクラシックを」と始まったコンサートの心は、形を変えても、二十年間息づいているのです。演じる人も、患者さんの笑顔で元気をもらっている、そんなコンサートでした。

病院への感謝の気持ちをもっと音楽にのせて

東千葉メディカルセンターでは、患者サービス充実するため、その一つとしてコンサートを考えていたとのこと。学生さんによる吹奏楽や brass band、プロの演奏家による公演などいろいろな方法を考えていきましたが、「予定している演奏場所が集中治療室に近く患者さんに影響が出る可能性などを考えてしまうと、演奏者がなかなか決まらなかった」と澤田事務部長。そんな時、たまたま地域で音楽活動をしている市民の人たちとの出会いがあり、その協力で第1回のコンサートが実現することになりました。中には、東千葉メディカルセンターの救急でお世話になったという方もいたそうです。



演奏に聞き入る
東千葉MCの患者さんたち

コンサートは、入院患者さんが一番落ち着いて過ごせる平日の午後ということ。12月21日(水)に1時間ほどのプログラムで行われ、クラリネットとピアノによるクラシック曲の演奏と、合唱の二部構成でした。当日は、100名を超える多くの患者さんなどに集まって頂き、中には点滴、車イスで聞きに来られた患者さんもいらっしゃり、「どの患者さんも良い笑顔で、『入院中にとほとするひと時を過ごせたい』『普段はクラシックを楽しむ機会もないので良かった』『またやって欲しい』などの感想が寄せられました」と澤田さん。

「今後は、定期的な企画として、患者さんに何かサービスをしていきたい」、中に



合唱の音がホールにやさしく響きます



(藤本晴枝)

「自分たちにもやらせてもらえないだろうか」と言う患者さんもちたそう。いろいろな形で、地域との連携を深めて行きたい」とこれからについて語って頂きました。このような企画を通じて、病院と地域が近い関係になっていったら素晴らしいですね。